

資料

住居領域履修実態調査（H9・5月実施）  
調査対象：札幌市内中学校，回収率55校 / 96校

1，今年度「住居領域」を履修していますか

している 18%	していない 82%
----------	-----------

2，履修している学校の場合

(1) 履修学年

1年	10%
2年	10%
3年	80%

(2) 配当予定時数

31～35時間	0
21～30時間	0
15～20時間	40%
11～14時間	50%
10時間以下	10%

(3) 実習題材（複数回答）

- ・食事，団らんのための住空間設計（7校）
- ・快適な住まいと環境条件の調査（2校）  
  { 衛生，室内気候，騒音，安全 }
- ・日常生活と地域社会の関係や環境保護（2校）
- ・自分の住まいの環境調べ（1校）
- ・その他（2校）

3，履修していない学校の場合

(1) 履修していない理由

・領域数の関係	67%
・生徒の興味関心がない	3%
・領域の内容が難しい	15%
・その他	15%

(2) 「住居領域」についての教師の考え

・必要である	55%
・必要ではない	26%
・その他	19%

(3) 過去に「住居領域」を履修（授業）した経験

ある 59%	ない 41%
--------	--------

「ある」の内訳：5年以内（男2人，女15人）  
5～9年以内（男12人，女11人）  
10年以上前（男3人，女7人）

4，「住居領域」に対しての意見

- ・時数が減少された現在の時間や履修領域数の関係では困難（多数）
- ・家庭生活との関連，この領域で何を教えるのかの再検討が必要（教師自身の研修が必要）
- ・家庭生活領域で深めるより方法がない（多数）
- ・必要であるが，指導方法や題材が難しい（多数）
- ・適する題材，資料の収集，視聴覚教材などの開発が必要（多数）  
  （住宅模型制作，設計でない題材の開発が必要）
- ・環境教育や高齢化社会との関係で今後必要（多数）
- ・教師自身の生活体験があるので，他の領域に比べて指導しやすいのではないかと
- ・生徒には基本的な知識の理解が少ないことが多いため，実生活に役立てる発見が多くて良い
- ・融合教材に？，保体などとの関連，総合学習の中で？，いずれにしても中学校の学習で学ばせたい
- ・北海道という地域性，地震や安全対策などを考えることも今後必要（多数）
- ・教科として，全領域を見直す時期にきたのでは？
- ・もっと新しい内容ではないのか
- ・選択教科の一つとして考えたい

考察とまとめ

本領域の履修状況を把握するための調査を実施した。その結果，

- ・住居領域は必要であるが，時数の関係で履修できない
- ・指導内容の模索（基礎・基本の学び方や評価のあり方）
- ・学習意欲を高める題材の開発の必要性（主体的に取り組める題材）

以上をまとめると，課題・問題点として時数に関すること，教える側の研修の必要性の二つに大別される。特に後者についてはこの領域の指導をしたことのない教師が多いことも履修しない理由の一つと思われる。教師の人員配置なども加味すると，今後も現状のままでは履修することは困難であると言える。

しかし，家庭生活の在り方は大きく変化することは必須だろうが，衣食住の言葉で表現されるように「住」の必要性は変わらない。本領域が生活の基盤の器としてまた，住まいは簡単に取り替えられない事などを考えた時，住まわされるのではなくよりよく住むということから学び、自ら考える主体的な力はまさに生きる力を育むことにつながると思われる。そのため，このような状況を私たち教師は共通理解し，住居領域の研修すなわち，指導計画の検討、時代や生徒の実態に合わせた題材の開発などを組織的に進めることを早急にする必要があると考える。

また，履修については今後は選択教科等が望ましいと考える。